

シリア・サリン事件：NY タイムズのもう一つのねじ曲げ られた報道

【訳者注】虚報とか偏向報道というものが、重大な結果を生じない場合は、放置しておいてよいかもしれない。しかし、それが明らかに戦争を煽るようなものである場合、黙っていることはできない。ロバート・パリーのこの論文は、トランプのシリア攻撃（4/6）の根拠とされた、シリアの化学兵器事件（4/4）について、ニューヨーク・タイムズがごく最近（4/27）作成・放映した、明らかに事実を曲げたテープを、厳しく批判したものである。パリーのよう人でなければこれはできない。一般大衆は、こんなテープまでできれば信じてしまうであろう。

日本のメディアが、このテープを使う（すでに使った）かどうか知らないが、テレビでニュース解説をする立場の人で、シリアのアサドが悪の根源だという立場の人が、何人かいる。そういう人たちは、自分が何を根拠にしているのか自問した上で、この論文をよく読んでいただきたい。特に結びの（太字にした）切実な一文に注目すべきである。

Robert Parry

April 28, 2017, Consortiumnews.com

ニューヨーク・タイムズが、またしても、4月4日、シリアの化学兵器事件の偏向報道で、理性を用いるより嘲笑を浴びせることによって、戦争か平和かというこの時期の、現実的な判断を不可能にしている。

4月4日、Khan Sheikhoun での化学兵器事件を、バシヤール・アル・アサド大統領の罪にすると、ニューヨーク・タイムズや他の西側ニュース・メディアは、シリアとロシア両政府が発表したタイミングや他の詳細が、食い違うと言って大騒ぎしている。

タイムズその他はまた、アサドは、サリン攻撃など行う論理的な理由が全くない、なぜなら彼の軍隊は着実に勝ち進んでいたし、彼は、トランプ政権がシリアの“政権交代”というアメリカの長年の目標を、棄てたと聞いたばかりだったからだ、と論評する者を、誰彼なくこき下ろしている。



サリンと思われるものを放出したと想定される
缶の見つかったクレーターの写真——ハン・シ
ェイクドーンにて、2017/04/04

主流メディアのわめきの外側にいる我々には、そこに、軍事的に利益になるものは、ほとんどないと思える。それどころか、アサドは、もしそんなことをすれば、過去6年間、彼の国を引き裂いてきた国際的な介入を、さらに受けると考えたであろう。しかしタイムズや他の主要メディアは、アサドは単に、ある種の特別に残忍なアラブ式やり方で、自分は罪にならない (impunity) と宣言しているだけだと言って、我々の論理を一蹴している。

しかし、タイムズなどが、ロシア-シリアのタイミングの遅れに見た価値も、アサドの動機についての奇妙な説明も、全く意味をなさない。結局、もしアサドが、自分が罪にならないことを、奇妙なやり方で公的に宣言しているのだとしたら、なぜ彼は、自分の軍隊は化学攻撃などしていないと言うのか？ 彼は単に「そう、私がやりました。が、誰がどう考えようと私は平気だ」と言うはずではないのか？ それが impunity の意味ではないのか——誰も自分の責任を問うことのできる者はいないと知って、やりたいことをやる、という意味ではないのか？ アサドはそうは言わず、一貫してそんな攻撃の命令はしていないと言っている。

爆撃の時間についての、鬼の首を取ったような見解も、論理的検証には耐えるものではない。現実の攻撃が午前6時ごろ起こった（そうらしい）のなら、なぜ、シリアとロシアは、正午頃に、シリアの軍用機が、ハン・シェイクホーンに通常攻撃を行ったと言うはずなのか？ 彼らが6時間タイミングを遅らすことによって、得るものは何もない。なぜなら、シリアとロシアが強調しようとしたことは、確かに空爆はあった、しかしそれらは通常爆弾であって、それが意図せずして、化学兵器を納めるアルカーイダの倉庫を攻撃したかもしれず、それがガスを放出したのかもしれない、ということだったからである。タイミングの問題は、そうしたことに関係がない

このタイミングの過誤に見えるものが示唆するのは、混乱であって、タイムズが4月27日の、Malachy Browne, Natalie Reneau および Mark Scheffler による「いかにシリアとロシアが、化学攻撃をねじ曲げたか？」という宣伝ビデオで主張したような、“spin”（ねじ曲

げ) ではない。

シリアとロシア両政府は、起こったことに戸惑ったらしい。両国の高官たちは、通常空爆が行われたことを了解しており、その実行時間と想像したものを述べた。時間のずれ(実行と発表の)は、シリアの空軍司令官が、空軍機を予定より早く飛ばしたか、誰か他の人物が、この午前 6 時の攻撃を実行したか、どちらかであることを意味している。しかしシリアもロシアも、この詳細についてウソをつく理由はまったくないと思われる。

タイムズはまた、アサドが、攻撃があったことを否定していると言って、大騒ぎしている。そしてビデオは、いくつかの爆弾の爆発の跡を示している。しかしこれはタイムズが、人々を騙しているにすぎない。アサドは、爆撃があったことを否定していない。彼は自分の軍隊の、化学兵器の配備を否定しているのである。

空からの介入

これや他のシリアの化学兵器事件についての、西側の物語に浸透している、もう一つの誤った想定は、シリア政府とその同盟国ロシアだけが、シリアの制空権をもっているかのように言うことである。これは明らかに間違っている。アメリカやその同盟国やイスラエル、ある程度は暴徒までが、シリアの制空能力をもっている。

シリアの説明によると、暴徒たちが政府のヘリコプターを何機が捕獲し、明らかにその一機を、国連調査団が**多数の目撃者によって、ヤラセと確認している、あの 2014 年の化学兵器攻撃**に使った。<https://consortiumnews.com/2016/09/08/un-team-heard-claims-of-staged-chemical-attacks/>

さらに言えば、アメリカとその同盟国は、シリアの多くの場所で、イスラム国やアルカーイダ・テロ集団に対する空爆戦線を行っているが、テロ集団は、サウジアラビア、トルコ、カタール、その他スンニ派の率いる首長国によって支援されている。トルコもまたクルド軍に対する攻撃を盛んにやっている。そしてイスラエルは、レバノンの軍団(ヒズボラ)に向けられていると信ずる、イランの兵器の破壊をはじめ、自分の利益になるものを促進するために、繰り返しシリアの標的を砲撃してきた。

これらの全部でないにしても、そのいくつかは、4月4日のシリア化学兵器事件を起こすのに、シリア政府よりも遥かに強い動機をもっている。3月の終わりに、トランプ政権は、アサド政府を倒すのはもはやアメリカの優先課題ではないと通告し、トルコ、サウジ、湾岸諸国、またイスラエルを含む、シリア紛争に関わっている数か国を驚愕させた。

そのすべてが、シリアに資源的利害をもち、“政権交代”を行う理由をもっていたので、トランプ大統領の宣言を覆す動機をもっていた。(イスラエルは、少なくとも 1990 年代半ば以来、シリアの政権交代を、やらねばならないことリストのトップに置いてきた。) その希望をつなぐのに、もう一度化学兵器攻撃のニセ旗を行い、これでアサドを責める以上に、うまいやり方があるだろうか？ (もう一つの 2013 年 8 月のサリン攻撃もまた、今は、アルカーイダによるヤラセ事件だったらしいことが判明しており、これは何百人を殺した一方で、オバマ大統領はほとんどこれに騙され、大規模な米軍による攻撃を行った。)

<https://consortiumnews.com/2017/04/20/why-not-a-probe-of-israel-gate/>

<https://consortiumnews.com/2014/04/07/the-collapsing-syria-sarin-case/>

ハン・シェイクホーンの事件のすぐ後で、私が情報局ソースから聞いた話では、アメリカの衛星写真が、ドローンの映像らしいものを、毒ガスが発生した時間あたりに、その近くで捉えている。その経路をたどるのは技術的に難しいが、ソースによると、アナリストたちは、それはヨルダンにある、暴徒の援助に使われる、サウジ-イスラエル特務作戦基地から飛来したものかもしれないと考えている。

その他にも、トランプが“アサドがやった”という結論に飛びついて、4月6日に59発のトマホーク・ミサイルをシリアの空軍基地に発射する前に、注意深く検討すべきだった、いくつかの要因がある。しかしそれらは、アサドを非難するに性急のあまり、真剣に考えられなかった。

例えば、アルカーイダの賢い宣伝屋なら、もう一度地面に穴を掘って、化学兵器の缶のようなものを中に入れて、化学攻撃のヤラセをもう一度試みることも考えられた。タイムズその他は、クレーターは、衛星写真で前には見えなかったと言っているが、その見解は、クレーターが飛来爆弾でできたに違いないということを、意味しない。地上の爆発でも、単純に地面を掘っても、そのトリックは簡単で、つぶれた缶を後から突っ込めばよい。

疑わしい物語

“クレーターの中の缶”という物語は、MITの科学技術と国家安全保障の専門家、Theodore Postolには、特におかしく思えた。なぜなら、何枚かの現場写真は人々が、サリンの浸み込んだはずの穴の中に、最低限度の防護服を着て入り、ひっくり返って死なないからである。ポストルはまた、この缶は爆発したというより、つぶされたように見えると言った。

<https://consortiumnews.com/2017/04/18/nyt-mocks-skepticism-on-syria-sarin-claims/>



シリアのハン・シェイクドーンにて、サリンガス爆弾が落ちたと言われる穴を調べている人々

あるいは、サリンか他の強力な化学兵器にアクセスできる第三者が、空中から——おそらくあのドローンから——毒ガスを拡散した可能性もある。その場合、暴徒が事前に、その拡散と時間調節したか、または事後に、その機会に反応したのであろう。

確実な真実は、多くの国々の情報局が、サリンか、かつてシリアにあった毒物を真似た物質をつくり出せるという点で、ぴったり調子が合ったということである——もともと、それらの化学兵器は、2014年に、ロシアとアメリカによって叩き出された合意の一部として、破壊されたことになっている。

そして冷酷な情報局の職員はいくらでもいて、彼らは80人やそこらの人間が死んでも、地政学的優先課題のためには、付随的損害として受け入れられると考えている。そのタイミングも、トランプ政府の、もはやアサドを倒すつもりはないという重大宣言の直後だったから、このような姦計に論理的な動機を与えたであろう。

過去6年間に、シリアで起こった、あるいは起こらなかったことを評価してみると、考えるべき他の問題は、あらゆる側が、特に“政権交代”を狙う者たちが、戦闘地域に対する悪賢いプロパガンダ工作を展開してきたことである（訳者：「ホワイトヘルメット団」はその典型）。

反政権の活動家たちは——西側と湾岸諸国から援助と補給を受けて——死んでいく子供たちを見せつけることの感情的価値を、よく理解している。これらの宣伝屋たちは、主要な西側メディアへの、恒常的な、無批判的なアクセスをもっていて、それはVICE（というメディア機関）の物知りから、ネオコン、さらにNYタイムズのリベラル介入主義者に及んでいる。

言い換えると、このシリア悲劇の最終章で、いまだに切実に求められているのは、これまでのプロパガンダの浸み込んだ物語に汚されていない、誠実な調査を行うことのできる、何ら

かの正直な報告者なのである。しかし、そのような人物またはグループが見つかる可能性は、非常に小さい。

——以上